

## 編集にあたって

特集震災予防研究（その7）が計画されている段階で1983年5月26日に日本海中部地震が発生した。本センターの震災予防グループでも多数の人達が早速現地に赴いて調査を実施した。そして収集されたデータを基に、学内で数次にわたる報告会を開催して、今回の地震の特徴が検討された。

このように国内で発生した顕著な地震に対しては本グループによって被害状況の調査が迅速に実施されて、その成果が「総合都市研究」に発表されて来ているところである。今回の日本海中部地震は津波と液状化とにおいて特徴をもつものであり、われわれが常に目標の根底においている首都圏における地震災害予防に対し新しい教訓を与えるものであった。この号にはその研究結果が多く集積されている。

小冊子「地震災害を考える」が前回の特集震災予防研究（その6）の発行後に刊行された。これは震災予防グループの研究内容を紹介したものであるが、諸官庁や報道機関などの反応が大きいことをひしひしと感ずるにつけても、改めて執筆者の意図が正確に伝達されることを期待したい。そして、この「総合都市研究」の編集も多くの読者の反応によってはじめてより良いものに発展していくことを認識しなければならない。

ところで、本センターにおいて発号の当初から震災予防グループを御指導いただいていた中野尊正先生が来春3月をもって定年退職されることは何とも致し方のないこととは言え、都市研究センターにとっても震災予防研究にとっても誠に心細い限りであると言わねばならない。中野先生の防災に関する御見識とその方面におけるご活躍はここで喋々するまでもない。今われわれにとっては、

「中野先生の今日までのご教導を忘れることなく、そのご趣旨を正しく反芻して、震災予防研究をさらに充実させるべく研鑽に励みます。」

とお約束する以外に言葉を知らない。本号を、中野尊正教授退官記念号とし、献呈いたします。

（震災予防研究グループ）